

神の人工リヤの祈り 1

神様は信仰による祈りを必要とされます。神様は祈りを通して働かれ、この祈りをしてくれる信仰の人を、捜しておられるとさえいうことが出来ます。

旧約聖書の中で、選ばれたイスラエルが何度も周辺地域の偶像礼拝に陥り、真の神を捨て、罪を犯した記事があります。その度に選ばれた者たちがイスラエルを真の神に立ち返らせましたが、その中でもアハブ王夫妻によるバアル礼拝の強要は最悪です。従わない者は殺され、真の神の預言者たちは南ユダ王国に亡命するか、山奥に隠れました。国民全体が偶像礼拝に傾き罪を犯したのです。

この危機的な状況の時、神様が見つけれられたのがエリヤです。彼は神の力を頂き、守られ、たった一人でアハブ王に立ち向かった「神の人・祈りの人」です。

聖書の学び

エリヤとは「主は神である」の意味

I、エリヤを見つけ出された神 (ヤコブ5:17、Ⅰ列王17:1)

1、北イスラエル王国はどのような状況だったのでしょうか

- 1) アハブ王はどのような王だったのでしょうか？ (Ⅰ列王16:29~31)
- 2) アハブ王とバアルの信奉者の妃イゼベルは、神の預言者たちにどのようなことをしたのでしょうか？ (Ⅰ列王18:13)

2 Ⅰ列王17:1には、無名のエリヤが突如現れて、王に警告しました。彼はどのような人だったのでしょうか。(ヤコブ5:17)

- 1) エリヤは私たちと同じような人間… 祭司や預言者ではない、超人でもない
- 2) ギレアデのティシュベの田舎出身で、既に4、50代…普通の仕事をしていた人
(Ⅰ列王17:1)
- 3) 雨が降らないように熱心に祈った… 神様から祈りなさいと言われて祈ったのではなく、先に、エリヤが祈り始めた事から始まった。

Ⅱ、エリヤの祈りに答えられた神

(Ⅰ列王17:1)

1、どうして、エリヤは雨が降らないように祈ったのでしょうか？

- 1) 偶像礼拝の現状を憂えたエリヤ… 毎日、熱心に神様に訴えて祈った
- 2) 真の神が生きておられることを示す道を探った → 申命記11:16、17
- 3) みことばの成就が、イスラエルを神に立ち返らせる道だと分かった。
① この事を王様に警告してくれる人が与えられるように → 祈り初める

2、出て行けば、命が危ないことを知りながら、自分で出て行く確信はどこから来たのでしょうか？
(Ⅰ列王17:1)

- ① 直接神様からエリヤが行くように、約束のことばを頂く。 → 従う決心
「私のことばによるのでなければ」… 神様が「雨が降らせる」と言われることばを、
私が聞いて、王に伝えるまでは・・・雨は降らない
- ② 神様から頂いたみことばが必ず成ると確信できるまで祈る。 → 行動に移す

Ⅲ、エリヤを養い、育てられる神

(Ⅰ列王17:2～9)

1、神様はエリヤを守るだけでなく、信仰の訓練を与えられました。
どのように語られたのでしょうか (Ⅰ列王17:2～7)

- 1) 身を隠すこと…空のことについて、一切を神様の御手にゆだねる。
※一喜一憂しない。(Ⅰ列王17:2～3)
- 2) 食物のこと…自分自身をも、神様の御手にゆだねる。(Ⅰ列王17:4)
- 3) 信仰の訓練 ①本当に欲深いカラスが食べ物を持ってきてくれるのか？！
②一日だけでなく、ずっと、カラスが毎朝夕食べ物を運ぶのか？
③水が枯れてなくなってきたらどうするのか？
※神の指示があるまで待つ … 忍耐 (Ⅰ列王17:7～9)

(沢村五郎著聖書人物伝より)